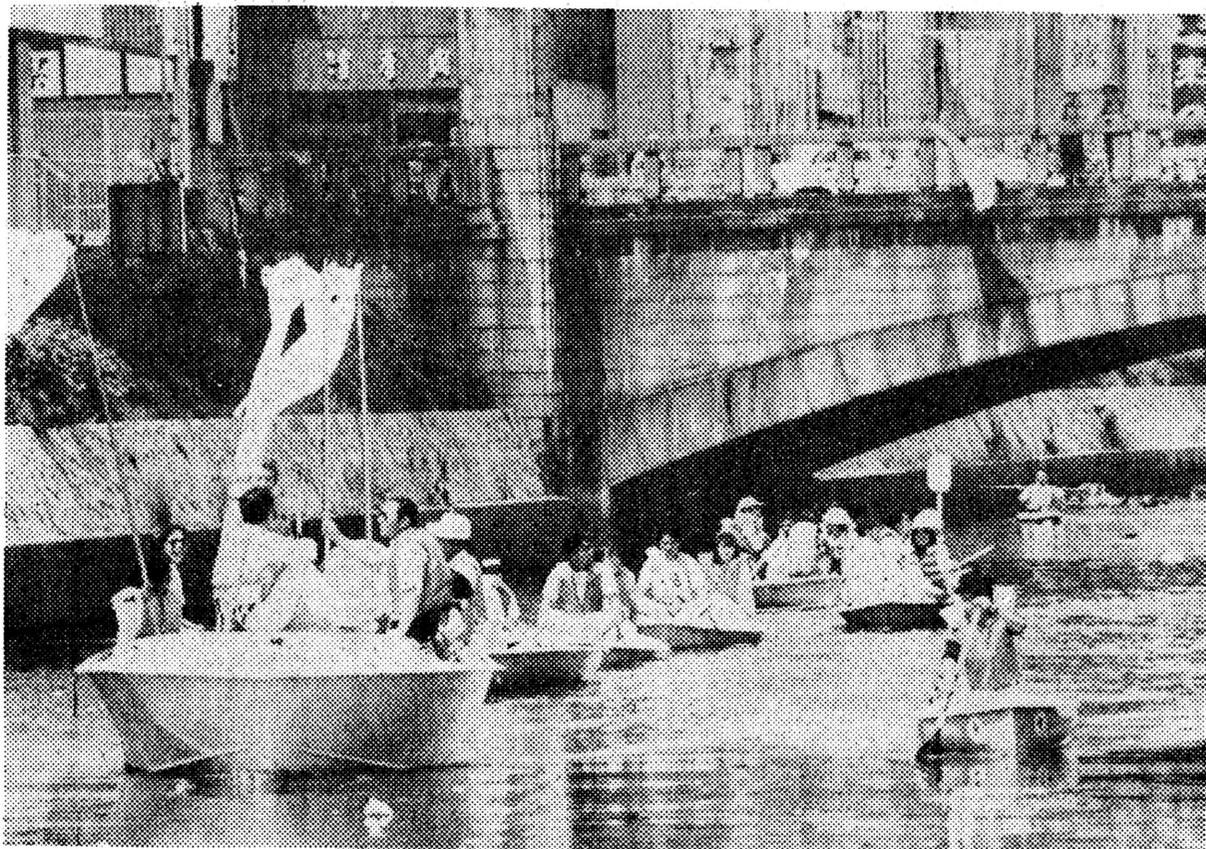


和歌山を水辺の都市に

—まず内川の浄化を願って—
—市民有志ら水上パレード—

和歌山市街地を流れる内川に十八日、市民グループ「和歌山まちづくり会議」（谷口正巳代表）がカヌーや手作りのボートなど五十余隻を持ち寄り、水上パレードやレースを繰り広げた。内川の汚れに慣れこみになった市民に、浄化を考えてもらおうと、朝日新聞和歌山支局などの後援で開いた「内川ウォーターアドベンチャー」。

パレードは、のほりを立てて太鼓を鳴らすモーターボートを先頭に、カナディアンカヌーや



手こぎボート、ゴムボート、箱舟などが連なり、約八百人をデモンストレーション。このあと舟の種別ごとに約三百人が六レースを開き、川べりや橋の上の観客から声援を受けた。

内川は昭和二十年代まではカ

手こぎボート、箱舟が浮かんでいたが、今は家庭下水や工場排水、貯木場の木のくずで汚れ放題。主催者はこのイベントを起爆剤に浄化運動を盛り上げ、和歌山市を水辺の都市に再生させたいと張り切っている。

河川浄化を呼びかける水上パレード＝和歌山市十一番丁の内川で